

やむを得ず、一人暮らしをしています…

⇒チームで臨むようなしくみをつくるのが大切です

【 認知症の人の状態 】

とよさと病院 認知症疾患医療センター

認知症は知的機能が低下しますので、**24時間の見守りや、援助が必要**となります。そのため、一人暮らしの人が認知症になった場合、家族と同居するか、施設に入るほうが安全です。それでも、身寄りがいない場合や、本人が自宅に住むことを強く望む場合には、一人暮らしを続けることがあります。しかし、規則正しい生活を送ることは難しく、体調を崩しがちになったり、暮らしを維持することが困難な状況に陥ることも珍しくありません。

このような生活を支えるためには、万全のケア体制を整える必要があります、まずは

近所の顔なじみの人や民生委員、ケアマネージャーなどが認知症の人と関わっていきます。ところが、これらの人が認知症の人と深く接していくうちに、認知症の人にとって一番身近な人となるため、わがままを言うなど、身近な人に対して認知症の症状が強くなるという認知症の特徴が現れることがあります。認知症介護の難しさを十分に理解し、**チームで臨む**ようなしくみをつくるのが大切です。



【 対応方法 】

- ①いざというときの**緊急連絡先**を、電話のそばに大きく書いて貼っておきましょう。
- ②食事は、食材や出来上がったお弁当を自宅まで届けてくれる、**配食サービス**を利用できます。
- ③**介護保険サービス**を利用して、食事、入浴、排せつの介助や、家事の援助を頼みます。自宅で、介護用の浴槽を使った入浴サービスを受けることもできます。
- ④医師による**訪問診療**、看護師による**訪問看護**で、健康管理を行います。
- ⑤**訪問服薬指導**を行っている**薬局**に依頼すると、薬剤師による薬の配達、服薬支援を受けることができます。

⑥お金の管理や契約などは、**成年後見人制度**で対応しましょう。

⑦家の鍵は、**信頼のおける隣人**などに預かってもらうようにしましょう。

⑧一人暮らしの人が徘徊をした場合は、発見が遅れ、交通事故に繋がるケースもあり、問題になっています。**“徘徊ネットワーク”**というシステムもありますので、**地域包括支援センター**にお問い合わせください。

参考文献：杉山孝博, 認知症の9大法則50症状と対応策, 法研, 2013, P150-151

2022.6作成

ケアのコツ…人のつながりを活かせる



家族だけでなく、ご近所さんや、会社の元同僚など、本人にゆかりのある人たちは、介護が必要になる以前から付き合っているわけですから、これまでの人生のエピソードや、本人の習慣やこだわりなどを知っていることが多いので、「本人らしさを代弁できる人たち」ということができます。

その人たちとつながることで、ケアの可能性は大きく広がります。その人たちとつながる力は、認知症ケアに必要な介護力の一つといえます。

参考文献：ペhos, “理由を探る” 認知症ケア, 株式会社メディカル・パブリケーションズ, 2014, P169-171



認知症疾患医療センター
TEL 029-847-9581